



煌めけ真壁っ子

学校便り 第 11 号
令和 7 年 3 月 19 日発行
学校長 津嘉山 博好

6 年生を送る会

3月5日(水)、6年生を送る会を行いました。どの学年も、6年生に小学校生活のよい思い出にしておらおうと一生懸命でした。下級生の思いをしっかりと受け止めてくれた6年生。とても頼もしいお兄さん、お姉さんに成長しています。



4月の行事予定

- 8日(火) 始業式
- 9日(水) 入学式
- 17日(木) 全国学力・学習状況調査(6年)
- 20日(日) 日曜授業参観
PTA総会
教育講演会
- 21日(月) 振替休日
- 24日(木) 春の遠足
1年生を向かえる会
- 25日(金) 県学力調査(4・5年)
- 29日(火) 昭和の日
- 30日(水) 家庭訪問(1日目)

令和 6 年度卒業式

3月19日(水)、令和6年度卒業式を行いました。38名の卒業生一人一人が、これまで育ててくれた保護者の皆さんや先生方に感謝の思いを持ち、真壁小を巣立っていきました。中学校では、新たな仲間も加わり、これまで以上に賑やかで楽しい学校生活を送っていくことになるでしょう。



<離任者紹介> ～ お世話になりました ～

津嘉山博好(校長)、大城春美(ハッピー1組担任)、金城由利佳(5年担任)、上原貴子(学習支援員)

子供の語彙力を育てる ～ 語彙力は「学力」の基礎 ～

自分の意見を聞かれて、話そうとするけど言葉が出てこない、あるいは「別に」「ない」と最初から伝えることを諦めた言葉で返す子が少なくないです。私が真壁小に着任した当初から気になっていて、語彙を増やすにはどうしたらよいか、先生方と話し合い、様々な言葉かけを試してきました。

しかし、現状は思うようには改善せず、どうしたらよいものかと悩む日々が続いてきました。そんな時、Yahoo!ニュースである記事が目にとまったのでご紹介します。

小児科医、医学博士、公認心理師であり、不登校・引きこもり・発達障害などの親子・当事者支援事業である「子育て科学アクシス」代表。文教大学教育学部教授でもある成田 奈緒子氏の著書『子どもの隠れた力を引き出す 最高の受験戦略——中学受験から医学部まで突破した科学的な脳育法』(朝日新聞出版)からの抜粋だそうです。

5歳までの子どもの語彙力は、基本的に母親の語彙力に依存すると言われています。小学校に入学してからは授業や教科書などからも語彙を獲得するため、個人差は縮まりますが、5歳までの時点では、母親の言葉掛けが多ければ多いほど、子どもの語彙も増えることがさまざまな研究により証明されています。^{*1} ですから家庭において、特に母親は意識的に子どもに言葉掛けをすることが大事です。外国語学習をイメージするとわかりやすいのですが、言語を習得する過程は非常に複雑です。それを子どもたちは系統だった授業ではなく、生活を通して獲得していかなければなりません。例えば、乳幼児は犬を見た時に「わんわん」と言います。幼いうちは発音も上手にできないので「わんわん」で十分ですが、あくまで幼児語であり、成長の過程でいずれは「犬」という正しい日本語を覚える必要があります。「犬」という言葉をインプットしてからは、その記号に当てはまるものを覚えなければなりません。チワワも柴犬も犬ですし、動画や絵本の中の犬、ロボットの犬もいます。そうしたさまざまなタイプの犬に触れる中で、「犬」という単語に該当するものをどんどん分類していきます。これは放っておいても勝手に理解できるようになるわけではなく、生活の中で親が意識的に情報をインプットしてあげなければなりません。特に家庭の中で子どもの語彙を増やす機会が、食事です。でも、家族が同じ方向を向いてテレビを黙って観ている、という環境では語彙が増えないので、できるだけテレビを消して目の前にある食事を五感で感じ取り、それを言葉にすることを親から行って見せましょう。「このオムレツ、外は弾力があるけど、中はとろとろにチーズがとけていて、2種類の食感が同時に楽しめる逸品ですなあ！」などわざと抽象語を交えながら「食レポ」してみるのも楽しいものです。

*1 “Lexical output as related to children’s vocabulary acquisition: Effects of sophisticated exposure and support for meaning.” Weizman, Z.O., Snow, C.E., *Developmental psychology*, 37 (2), 2001-psycnet.apa.org

抜粋文の最後に出てくる「抽象語」は、3年生から急に増えます。それが3年生の学習を難しくする原因となっています。教科書に出てくる抽象語の意味を十分理解することができず、文意を取り違えたり、文章が何を言っているのか理解できなかつたりしているのです。我々もすでにその対策に取り組んではいるものの、限られた時数の中で他の指導内容も多いため、学校全体で見ると十分な効果が上がっているとは言えません。子供たちの語彙を増やし、自分の感情や考えをしっかりと伝えることができるようになれば、人とつながり、互いに影響を与えあいながら共に成長し、「何を求められているのか」「どうすればよいのか」「他者との協力で解決に向かえるか」等、見通しを持って学びに向かうことができるようになると思います。自分の思いや考えをしっかりと言える、共感を持って相手の思いや考えを受け取る(話を聞く)という2つはとても重要で、これこそ自分を大切に幸せに自立するための基礎になると思います。だからこそ、まずは子供たちの語彙力を増やす活動を一緒にしていきませんか。